

## 副 専 攻 プ ロ グ ラ ム 説 明 書

開設学部（学科）名〔 工学部 〕

プログラムの名称	(和文) 生物工学副専攻プログラム
	(英文) Biotechnology
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>めざましく発展を続けるバイオサイエンスとバイオテクノロジーは、次世代を担う医薬、食品、環境関連分野等を含む基盤産業の育成に貢献している。また、多くの生物の遺伝情報が明らかになりつつある現在は、ポストゲノムの時代とも言われ、さらなるバイオの分野における先端的生命技術の創生が期待されている。</p> <p>生物工学副専攻プログラムでは、医薬、食品、環境関連分野のバイオサイエンスとバイオテクノロジーに関する専門的な知識・技能を理解・修得する上で、最低限必要となる科目群を提供する。具体的には、基礎的な生化学と分子生物学、応用的な微生物・動物・植物工学、遺伝子・タンパク質・糖質・脂質工学、生物化学工学に至る多彩な分野の知識を連携して修得できるカリキュラムである。</p>	
<p>2. プログラムの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な生化学と分子生物学の理解</li> <li>・ 医薬、食品、環境関連分野のバイオサイエンスとバイオテクノロジーの基礎となる概念、知識および手法の習得</li> </ul>	
<p>3. プログラムの履修時期・要件</p> <p>(1) 履修開始時期とプログラム登録時期 このプログラムは2年次以降に選択することができる。</p> <p>(2) プログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等) 既修得要件は特に定めないが、バイオテクノロジーに関する概論的な知識が必要である。</p> <p>(3) 履修上の注意点 各授業科目で単位を取得するために必要な出席および宿題・課題提出等に関しては、生物工学主専攻プログラムと同じ基準が適用される。原則として毎回の出席とすべての宿題・課題提出が必要である。</p>	
<p>4. 教育内容・構造</p> <p>(1) 修了に必要な単位数 別添の履修表を参照すること。</p> <p>(2) 副専攻プログラムの構造 別添の履修表を参照すること。</p>	
<p>5. 授業科目及び授業内容 別添の履修表を参照すること。 各授業科目の内容については、各年度に公開されるシラバスを参照すること。</p>	

## 6. 評価

### (1) 試験・成績評価

各授業科目における試験・成績評価基準に基づく。詳細については、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

### (2) 修了判定の基準

別添の履修表に従い、16単位を取得すること。

## 7. プログラムの責任体制

工学部第三類生物工学プログラム担当教員会が担当する。

## 8. プログラムの受入上限数

このプログラムの受け入れ人数の上限は、おおむね10名程度とする。

## 9. プログラムの既修得単位等の認定単位数等

### (1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

### (2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

### **【副専攻プログラム履修に関する注意事項】**

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

科目区分	科目コード	授業科目	単位数	履修指定	毎週授業時数								備考
					第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
専門教育科目	K70080	生物化学 I	2	必修			2						
	K73090	生物化学II	2	必修				2					
	K73710	分子生物学I	2	必修				2					
	K73120	分子生物学II	2	必修					2				
	K73720	糖鎖・免疫工学	2	必修						2			
	K73050	発酵工学	2	必修					2				
	K73160	生物化学III	2	必修					2				
	K73130	遺伝子・タンパク質工学	2	必修						2			